

日吉大社自然観察倶楽部通信

No.9 日吉桜の会 発足の集い！

H23年11月27日

11月とは思えない陽気の中、17名の参加者と共に日吉桜の会の第一回目を行いました。日吉桜を特集した京都新聞(11/20)の記事のおかげなのか、たくさんの方が集まりました。

まず、辻田先生と須原さんから日吉桜の説明がありました。それによると、日吉桜（ひよしざくら）とは、ヤマザクラの栽培品種で、日吉大社境内にその原木があったそうです。桜守として有名な佐野藤右衛門さんが命名した桜でもあります。昔は「地主権現」と呼ばれた東本宮の近くにあったため、地主桜（じしゅざくら）と呼ばれていました。室町時代の曼陀羅によると、日吉大社に桜が点在していたことが分かります。しかし、今現在、日吉大社にはその桜が存在しないという状況です。その日吉桜の地元復活に向けての第一歩が、まさに今回という訳なのです。



会の大まかな行動計画は、以下の通りです。

🌸 H23年11月	学習会と植栽する場所選び・整備
🌸 H24年4月	佐野藤右衛門さん宅訪問、植栽する場所選び・整備
🌸 H25年	苗木の育成・日吉桜の広報
🌸 H26年	植栽 →→→ 🌸 H28年4月 花が咲く予定？



次に**日吉桜**の特徴を列挙します。

- ① ヤマザクラの栽培品種で八重桜
- ② 花は2.6~3.6 cmで、めしべが2個
- ③ 花びらは約30~40枚で薄紅紫色
- ④ ガクは筒状の釣鐘(つりがね)形
- ⑤ 若芽は開花時に展開し、紅紫色を帯びる
- ⑥ 葉は濃い緑色でやや光沢あり、裏面は著しく白色。葉の先端が細長く伸びる。

桜について学んだあと、日吉大社境内の散策を兼ねて、桜を植える場所を探しに行きました。陽当たりが良いことは必須条件です。紅葉の観光・出店・七五三・結婚式など、境内はたくさんの方で賑わっていました。

西本宮から東本宮へと散策する中で、セッコク・藤・馬酔木・お茶(花)・豆柿(実)・スミレモ・カツラ・カナメモチ(実)・イズセンリョウ(実)・クサギ(実)などを観察しました。他にも、鹿の獣道(けものみち)やイノシシの掘った跡も見ることが出来ました。

八王子山にもフィールドを広げてさらに植栽地を探します。タマミズキ・ヤマザクラ・ツガ・モミ・イチイガシ(どんぐり)・イヌガシなどが観察できました。



左の写真は、八王子山山頂の奥宮の様子です。今年は全体的にモミジの色づきがあまり良くありませんが、きれいなモミジが出迎えてくれました。数か所の桜の植栽候補地を確認した後、下山しました。

陽当たりの良い場所・管理しやすい場所(水やり・シカの食害を防ぐ)・今の日吉大社の植生を壊さないこと・景観などを考えていくと、問題は山積みです。

ですが、今回集まったメンバーの力を借りて、努力すれば必ず、日吉桜が咲いてくれると信じています。桜が咲けば、観光の目玉になることは間違いないですし、坂本に誇れる植物があることはとても喜ばしいことです。桜が好きな人は他にもたくさんいるでしょうし、これからも協力してくれる方が増えていくことを願っています。

連絡先・問い合わせ先：日吉桜の会・辻田良雄（大津市坂本6-2-33）

t e l ・ f a x 0 7 7 - 5 7 9 - 6 6 5 9

メール：k a m o h u r a 1 2 7 5 _ m u a @ m x . s c n . t v



集合写真
(参加者の一部)

阿部さん・勝嶋さん
河村さん姉妹
久保さん夫妻
佐方さん夫妻
須藤さん・増田さん
西居さん夫妻
鷺見さん・三木さん
田中・辻田